地域づくり表彰

特定非営利活動法人 今庄旅籠塾（福井県南越前町）

次代の担い手と共につくる今庄宿の町並み

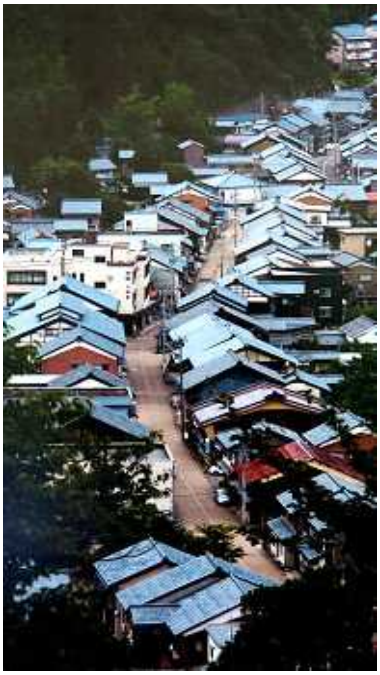
特定非営利活動法人
今庄旅籠塾
理事長
高嶋　秀夫

１．南越前町の概要

南越前町は、福井県のほぼ中央に位置し、北は越前市、越前町と池田町、東及び南は岐阜県、滋賀県、西は敦賀市と日本海に接する山・海・里の地形の変化に富んだ自然豊かな町です。また、古くから陸路と海路の要衝として栄え、北陸道や北国街道、北前船による交流から生まれた貴重な文化財が数多く残る歴史の町です。

特に今庄宿は、畿内から越前への玄関口として江戸初期に整備され、北国街道の宿場町として繁栄しました。天保年間には戸数が290軒余り、うち旅籠は55軒、茶屋は15軒余りと記録されています。現在も江戸期や昭和初期の家屋が軒を連ね、江戸期の道の形や短冊状の屋敷割がほとんど変わらず、当時の宿場町の面影をとどめています。

人口は、昭和35年をピークに減少が続き、同時に少子高齢化が進行しており、平成31年4月1日現在、10,542人、高齢化率は35.6%です。



今庄宿の町並み

２．活動開始の背景と経緯

今庄宿は、江戸期「宿場の時代」、明治から戦前「鉄道の時代」を通して交通・物流によって繁栄しました。しかし近年、鉄道の高速化や産業構造の変化による人口減少や空き家解体による更地増加で、人々の記憶にあった懐かしい今庄宿の町並みが消滅しつつあります。

このような中、江戸後期に旅籠であった若狭屋が取り壊されることが話題となり、今庄宿のシンボルである若狭屋を解体の危機から救おうと有志達が立ち上がったのが活動の始まりでした。「一歩を踏み出さなければ進まない」という理事長の掛け声が即行動になったのです。

当NPOは、建築設計士、施工技師、左官、高校教師、イラストレーター、菓子製造、調律師、創作歴史紙芝居作家など多分野の人材20名からなる団体で、互いを尊重し各々の得意とする専門力を十分活かせる環境作りに気を配り、知恵と汗を絞りながら改修・再生した若狭屋を活動拠点に楽しく活動しています。

活動は今庄宿の歴史的町並みの保存が中心でしたが、それに留まらずに文化の継承や文化財調査、住民生活支援にまで裾野が広がっています。

改修した活動拠点「若狭屋」

３．活動の広がり

（１）地域への広がり

厄介者の空き家が改修によって多目的文化施設やカフェ、そば店、地場農産品販売店など、今まで今庄宿にはなかった多様な町家活用が地域交流の場として定着してきました。

このような中で町は、地域が主体となり町並み景観の保全に努め、来訪者との交流による賑わいを創出して住民の暮らしやすさを高めることを目的に「今庄宿プロジェクト事業」を実施しました。

当NPOも参与し、平成26年度から4年間の事業で、歴史的建築様式に沿って自宅を改修工事したり、玄関先や店先にのれんや幕を新調したり、花や植木を華やかに飾るなど、「壊して新築するだけではなく、改修して住み続けたり利活用することも選択肢になる」といった町並み保存に対する住民意識向上につながる取組みの先導に貢献しました。

町並みの賑わい

（２）世代間への広がり

まちづくりを地域へ広げるだけでなく、高校生、大学生など次の世代へのつながりも大切にし、また県立高校との連携協定を結ぶことで、より具体的な目標と行動を共有できる仕組みをつくっていきました。さらに、福井県教育総合研究所の教職員研修講座を、「教育と地域連携」をテーマに若狭屋で行うなど、本活動が教師（学校教育）を通して次世代へ広がる道筋ができました。

福井　2019年(令和元年)6月29日(土曜日)

地域と教育 あり方学ぶ　南越前町

教員 旧旅籠「若狭屋」で研修

県教育総合研究所は二十八日、南越前町今庄の旧旅籠「若狭屋」で、中学・高校教員対象の紙芝居を使い教育のあり方などについて理解を深めた。職業柄などの教員十人が参加した。今庄宿は国道八号沿いに古い町家が立ち並び、教員たちは地域と教育、校生らを受け入れて良家

地域と教育連携の新聞報道

４．地域資源の活用

＜資料や文献により今庄宿町家の魅力を呼び戻した＞

私たちは、今庄の町家建築を担った大工集団の頭、島﨑文四郎の記録集である『越前今庄宿棟梁大工の記録・年代録見聞記（平成 30 年）』、『今庄郷棟梁大工島﨑文四郎家文書（平成 31 年）』や「齋藤家住宅 保存活用計画書（平成 24 年）」を刊行しました。

今庄宿関連文書調査

またヤシャゲンゴロウの研究者・奥野宏の研究集発刊に協力するなど、資料や文献によって今庄宿の魅力の根拠を掘り起こし、現在残る町家の価値を裏付ける歴史的な資源を整備することで、文書に記された今庄宿の歴史を元に町家を個性的に整え、その家や家族の物語を大切にしてまちづくりにつないでいます。

創作歴史紙芝居の上演

江戸期に旅籠であった若狭屋は、三和土土間を復元し多目的文化施設にすることで、旅籠の魅力とともに往時の賑わいを呼び戻しています。

若狭屋での声楽コンサート

昭和期の典型的な住宅である旧山田家は、元住人の生活に添った改修を施し懐かしい我が家の記憶を留めたことでリピーターが多く、「金沢や京都が忘れてきた私だけの場所（旅行者談）」として人気を呼んでいます。

カフェ「Coffee&Bread 木ノ芽」の営業は、今庄宿にはなかった形の住民交流や観光に訪れる人たちの心安らぐ場としての利用につながり、ホッとひと息つける雰囲気を求めて閉じこもりがちだった高齢者や独居者が憩う場となりました。

憩いの場・旧山田家のカフェ

宿場の時代から鉄道の時代まで今庄の発展を牽引した大黒屋は、弁当屋としての歴史的イメージを崩さずに修復し、資料展示場や地域のマーケットとしての活用を始めました。

大黒屋改修完成記念除幕式

５．創意工夫

＜若者の空き家改修活動を支援しながらまちづくりの課題や価値観を共有し、人材を育成する＞

当 NPO は貴重な空き家を借り受け、改修工事を通して高校生や大学生らがまちづくりに簡単に参加できる環境を整えました。

次代の担い手と共に

そこで共に汗をかきながらまちづくりに向かう価値観や課題を共有し、技術支援や教育支援や起業支援を行うことにより、①町家改修の技術者が育ち、毎年指導者としての参加が増え、②カフェやそば店や地元農産品販売店が開業するなど、まちづくりや町並み保存の人材育成が実現しています。

６．成果

（１）町並み保存と日常的賑わいの定着

当 NPO が関与し解体を免れた歴史的建造物は若狭屋ほか 7 軒を数えますが、改修された町家への来訪者数が増加し、カフェ利用者が定例集会を毎週行うなど、賑わいが日常的に定着してきました。賑わいは町内のほかの観光施設へも広がり、今庄観光ボランティアガイド協会が町家を案内した客数は平成 24 年度から 29 年度にかけて 4 倍に増加し、今庄駅の物産販売売り上げは 3 倍を上回るなど、交流人口の拡大にもつながっています。

（２）「この地に住む」という誇りは地域活性の源

活動の発端となった築 200 年の若狭屋修復に参加した高校生たちのおかげで、今庄宿に若者の明るい声や働く姿が見られるようになり、住民のまちづくりへの興味関心が高まりました。地域内外からの協力者を積極的に受け入れることにより、地域内外からの理解や関心を得ることができました。また、今庄宿をつくり、伝え繋いできた先人の偉業を文献調査などの地道な作業によって知り、この地に住む誇りと自信を持ったことは地域づくりの源と言えます。

どんなに立派な町家が残っても、町中に人の営みが無ければ何にもなりません。1000 年の歴史と文化と人々の営みが蓄積・継続されている今庄宿の保存と活用を考えながら、当 NPO の途切れのない活動は続いていきます。